

令和2年度 総合教育会議 会議録

- 1 **と き** 令和2年5月29日（金）14:15～15:00
- 2 **と ころ** 大垣市役所4階 市長公室1
- 3 **出席者** 小川敏大垣市長、山本譲教育長、河合保孝教育委員、堀哲也教育委員、山川隆司教育委員、平野晶子教育委員
- 4 **事務局** 藤企画部長、寺嶋事務局長、
奥田地域創生戦略課長、山下庶務課長、渡邊学校教育課長、
神谷教育総合研究所長、吉安庶務課主幹、天野庶務課主査
澤村学校教育課指導主事、棚橋教育総合研究所指導主事
- 5 **傍聴者** なし
- 6 **議 題** 大垣市版「G I G Aスクール構想」推進計画について

7 会議録

発言者	発言概要
小川 市長	<p>それでは、これより、議事に入ります。</p> <p>本日の議題は、大垣市版「G I G Aスクール構想」推進計画についてでございますが、委員さんと意見交換する前に、事務局から説明をお願いいたします。</p>
神谷 教育総合研究所長	<p>大垣市版「G I G Aスクール構想」推進計画について <別添資料にて説明></p>
小川 市長	<p>ただいま、事務局から大垣市版「G I G Aスクール構想」推進計画についてご説明をいただきました。</p> <p>それでは、教育委員の皆様から、ご意見を頂戴したいと思います。</p> <p>河合委員ご意見をお願いします。</p>
河合 委員	<p>この文部科学省のG I G Aスクール構想は大変素晴らしいものだと思います。特にこの公正性という点が素晴らしいと思います。それを具体化、細分化、さらにはスケジュール、予算まで付けたのが大垣市版G I G Aスクール構想推進計画だと思っていますので、いち早く市長にはこれを導入する計画を作成して頂いて本当にありがたいと思っております。その中で一点私みたいにI C Tが苦手な人間にとって、子ども時代の経験も含めて言いますと、今回のG I G Aスクール構想で何でも出来ると思ったら間違いで、あくまでも非常に便利なツールという考え方をしっかり根底に持っていないと駄目なのではないかと思っております。特に私が小中学校時代に経験した中で大切だと思っていることは、児童生徒が五感を感じられるような授業です。例えば、私の時代にはカエルの解剖であったり、フナの解剖であったり、そういった授業がありました。たしかに映像を見るだけの学習でも出来るのですが、カエルの皮膚の触感であるとか、フナの解剖した時の鱗の触感とか、見るだけでは感じられないと思いますので、実際には触感だけではなくて、他の五感も合わせられるような、学び、体験とも言えますが、そういったものも取り入れていただけると良いのではないかと思います。</p> <p>あと、前回の教育会議でも言いましたが、今は性教育がどんどん低年齢化していますので、安全安心な性教育への活用も是非G I G Aスクール構想を推進する中で取り入れていただけると良いのではないかと</p>

発言者	発言概要
	<p>思います。</p>
<p>小川 市長</p>	<p>五感を大切にしていこうということで、ICT はあくまでもツールであるということは、その通りであると思います。音を聞くことは出来ませんが、匂いは感じられないし触感も感じられませんので、体験活動も大事にしていくべきだと思います。</p> <p>続いて、堀委員ご意見をお願いします。</p>
<p>堀 委員</p>	<p>これから日常的にICTを活用する環境は、社会に出ても当たり前に出てくると思います。昔は社会に出てからパソコンを色々勉強し始めましたが、今はそんなことはなく当たり前で色々ICTを使っています。今後は特にそうですけど、小学生、中学生のうちから授業中、実生活の中での体験を通じて育成することが可能になっていくのではないかと考えています。ICTを使うことによって、色々な情報を学校の授業中でも検索可能な環境にありますし、教科書だけではなくてその枠を超えた情報収集とか、または学習の機会の広がり、自由度が高まるのではないかと期待しています。</p> <p>何よりもICTが進むことによってテストの採点とか、課題の進捗状況の管理などが効率化されて、このような業務に費やす時間が削減されることにより、教職員が児童生徒に向き合う時間を確保出来るのではないかと考えています。また、授業の研究など本当に先生がやるべき事に時間を使うことが出来るようになって、さらに先生の働き方改革にも効果が出るのではないかと期待しております。</p> <p>またICTを活用してどんな状況でも学習出来るということですので、障がいがある方とか、不登校の方とか色々な状況の児童生徒に、バリアフリーと言っているのか分かりませんが、授業の提供が可能になるのではないかと考えています。</p> <p>来年の2月に運用開始という話でしたけれども、このGIGAスクール構想も、コロナの影響で加速度的にスピードが高まりましたので、学校も不安なことが多いのではないかと考えています。当然、児童生徒やその保護者の方々も不安にならないように事前の準備であるとか、丁寧な説明が必要になるのではないかなと考えております。</p>
<p>小川 市長</p>	<p>ICTを使うことによって教職員の事務が軽減されて児童生徒に向き合う時間が作れるのではないかと考えていますが、反面、教職員自身が運用方法や活用方法を研究して苦勞することもあると思います。</p>

発言者	発言概要
	続いて、山川委員ご意見をお願いします。
山川 委員	<p>市長の挨拶の中にもありましたけれども、これからはA I とか Society5.0といった中で、グローバルに活躍する子どもたちにはI C Tという存在を早くから教えるということは重要です。I C Tの利用から、今後の未来を考える機会になるのではないかと思います。</p> <p>それから、コロナ禍で学校が休業している時、フィンランドとかニューヨーク州などでは、既に一人一台のiPadを利用して、オンライン授業が行われているということです。</p> <p>日本ではその点少し遅れているのではないかと思いますし、感染症の流行だけではなく、大きな災害の時にも学校に来れなくなった児童生徒をいかにオンラインで勉強をつなぐかということは喫緊の日本の重要課題ではないかと思いますので、G I G Aスクール構想というのはI C Tの教育環境の整備を早期実現すべきものであろうと思います。</p> <p>先ほども出ましたが、多様な子どもたち、不登校であったり、外国人であったり、発達障害であったり、一人一人の個性に対するテーラーメイド的な学びを提供するというのが重要なことだと思います。</p> <p>特に学校に来れない不登校、それから病院に入院している子ども、例えば白血病で無菌室にいる子どもには、こういうものがあれば先生とコミュニケーションが取れて孤独感がなくなるので、このような学校に来れない子どもたちにとっても良いツールになるのではないかと思います。</p> <p>それから数学や算数は一つずつ分からないと前に進まないという学問ですので、リアルタイムにその児童生徒がどこまで分かっているかを知るといことは、先生にとって非常に重要です。途中抜けては前に進めないでリアルタイムに個人の習熟度、理解度を見ながら足りない部分を補うという教育が非常に良いのではないかと思います。</p> <p>理科社会に関しては、今まで図書館などで資料を集めないといけないという作業がありましたが、ネット検索も必ずしも良いとは思いませんが、授業中に検索することで自らが必要と考える資料を手に入れます。これは一般社会でもそういうことをやっていかないといけないので、これは個人に合った情報を得られるという点では非常に良いことではないかなと思います。</p> <p>それから国語に関しては、感想文など個々の答えがあるわけではない</p>

発言者	発言概要
	<p>ですが、児童生徒同士がディスカッション出来る可能性が出てくるのではないかと思います。特に、先人の作った俳句、小説、詩吟などを検索することによって豊富に作品に触れられるという意味ではこういう環境も良いと思います。</p> <p>また、インターネットで海外と繋げて、海外の学校の児童生徒と直接コミュニケーション出来る環境を作ってあげるというのは、これからグローバルな環境で活躍するためには非常に重要な部分でないかと思えます。特に日本人は、ネイティブな発音に慣れていない部分があって、私もアメリカに行った時に書けるけど話せないというもどかしさがありました。ですから、子どもの頃にネイティブな発音に触れるというのは非常に重要な教育だと思いますので、ぜひそういう機会が可能になるようなシステムであってほしいと思います。</p> <p>それから数年前から教育委員会でアクティブラーニングという話があって、生徒がテーマを決めて作っていくという授業にも、これが使えるのではないかと思います。</p> <p>最後になりますけれども、学校の先生がこれで省力化とか働き方改革は、なかなか難しく、むしろ最初は学校の先生が非常に勉強しないといけないという現実が突きつけられていると思いますので頑張りたいと思います。</p>
小川 市長	<p>今のような災害時もそうですけれども、このオンライン学習というのは個別に教育出来るということで、不登校の児童生徒もそうですし、保健室の子どももそうですし、色々な個別対応が出来て、いざという時に大変有意義だと思います。</p> <p>続いて、平野委員ご意見をお願いします。</p>
平野 委員	<p>子どもたちが将来活躍する社会では、対面だけではなくICT機器を活用した非対面型の仕事や生活が増えてくると考えられます。子どもたちが教育課程において、そうした環境に慣れながら学ぶことが大切だと思いました。新しい教育スタイルを作る中で、運用体制として各学校にGIGAスクールの担当者を配置することは、特にコンピュータのトラブル等が発生した時など必要と考えます。教材研究や授業前の準備など、板書の代わりとなる授業準備も必要になると思います。先生が授業中板書をしないことで、授業のスピードが早くなるのではないかと思いますので、その加減が難しいのではと思いました。子ど</p>

発言者	発言概要
	<p>もたちと向き合う時間もあわせて充実した時間として考えていくことが必要だと思います。</p> <p>具体的な活用方法については、ゲームをするときの子どもたちの夢中な姿を考えた時に、ステージを1つずつクリアしていく楽しさがあるように思いました。学習においても、クリアしていく楽しさがあると良いのではないかと考えますが、学習進度が視覚化されることで、やる気がアップする子とそうでない子の対応を考えていくことも課題かと思えます。</p>
小川 市長	<p>先生方の研修だけではなく、専門家や担当者がいないと、ちょっとやっていけないのではないかという感じもしますし、科目についての専門家も必要なような気もします。GIGAスクール用の専門家の授業も必要になってくるのではないかという感じがします。また、授業のスピードが速くなるというのはその通りで、先生が書いてる間に復習したり考えたりするわけですが、その時間がなくなってしまうので、画面がどんどん変わってしまうと、ついていけない場合がありますので、児童生徒にもそういう課題が出てくるのではないかと思います。</p> <p>皆様方からご意見を頂きましたが教育長からもお願いします。</p>
山本 教育長	<p>今頂戴した意見はいずれも非常に貴重なご意見ばかりですので、これから生かしていきたいと思っております。</p> <p>教員の働き方改革につながるかどうかという問題は確かにあります。少なくとも校務支援の部分ではご指摘あったように色々と省力化につながっていくと思っております。一方で、こうしたタブレットを使った授業というのは未経験の分野ですので、それを新たに作り出すということについては、かなり時間がかかると思っております。</p> <p>先ほど市長もおっしゃったように何らかの形で支援をしていかないと、新しいものを作り出して行こうということですので、教育委員会としても出来る限り支援していけたらと思っております。支援の仕方色々考えられますが、教育委員会としては組織を作って応援していけたらと思っております。</p> <p>それから、どうしてもタブレットやパソコン等で疑似体験が多くなりますが、疑似体験をすることで子どもたちが分かったつもりになって、実際触ってみたい、やってみたりしたら違うということが当然起こり</p>

発言者	発言概要
	<p>得ることですので、やはり実物とか体験を大事にしていかなければならないと考えております。併せて山川委員からテーラーメイドの教育というお話を頂きましたけれども、とりわけ不登校の子どもや、大垣市で言うと市民病院に入院している子どももおりますので、そういった子どもたちに活用出来るような形で進めていきたいと考えております。</p> <p>いずれにしましても、たくさんご意見を頂きましたので、それを元にしながら、ハードの面は徐々に揃っていきますが、ソフトの面はこれからですので、教育委員会全体でやっていきたいと思っております。</p> <p>財政的に額が大きいので、市長にご支援いただいで進めていけたらと思っております。</p>
小川 市長	<p>国もデジタルスマートシティのまちづくりを進めると言っております。新型コロナの影響でこの流れは加速していくと思いますが、試行錯誤はまだ相当やらなければいけないと感じております。企業においてもテレワークとかテレビ会議とか言っておりますけれども、必ずしもうまくいっているとは聞いていません。色々とトラブルを重ねながらやっているという状況でございます。</p> <p>一方で行政側としますと予算が必要となります。今年度は13億円で、全体では25億円掛かりますけれども、庁舎は100億円かけて50年もちますけれども、タブレットは50年もちません。そういう意味では、多額の費用をかけて常に更新し、ランニングコストも掛けながらもソフト面においては試行錯誤を繰り返して進めていくこととなりますので、これからも皆様から色々なご意見をお聞きしたいと思っております。</p> <p>そして、今の子どもたちは五感で体験することが少ないと感じています。覚えてなくてもみんなインターネットで調べられます。我々からするとインターネットが本当に正しいのかと疑問に思いますが、あのような一面的な表現でいいのか、むしろ多面的な定義があるのではないかと感じたりすることもあります。そういった点からみますと、子どもたちが考えながら行動していくという原点のところ非常に揺さぶられているようなところもあるわけですので、やはり教育はデジタル化だけで済む話ではないと思っております。今後も色々ご意見をお聞かせ願えればと思っております。</p>

閉会